

商工部会の活動について

早田 健治
Soda Kenji
(森林部門・林業)



商工部会は、建設部門を除いたその他の技術部門のメンバーが交流をして、自己研鑽や課題解決を行う部会です。

徳島県技術士会においては、各種部会の運用に関する規定により、機械、船舶・海洋、航空・宇宙、電気電子、化学、繊維、金属、資源工学、衛生工学、農業土木を除く農業、森林土木を除く森林、水産、経営工学、情報工学、地質を除く応用理学、生物工学、環境、原子力・放射線の各部門に属する会員が商工部会を構成するとされていますが、本県では、船舶・海洋、航空・宇宙、繊維、資源工学、経営工学、原子力・放射線の6部門の会員がおらず、残る12部門のメンバーが部会員となっています。

商工部会の魅力はその多様性です。複雑な現代社会において一方的な見方だけで問題が解決することはほとんどありません。様々なジャンルのメンバーが集い、しかも、常識的な科学的見地で考え、意見を交換する。

現在の商工部会は、まだ、そのレベルには達していないかもしれませんが、交流と各自の技術の研鑽の中で、よりよい方向を目指していきたいと思います。

現在の商工部会活動のメインは、年に数回行っている「商工部会サロン」です。市内の喫茶店で参加メンバーが近況報告を行い、興味のある議題が部会活動計画として合意形成されていきます。

現在進行形で行っている最大の課題は、部会員が所有する徳島市大神子地区の森林の整備への支援です。

この森林は、徳島市随一の景観を誇る大神子海岸に隣接しており、全域が風致保安林及び県立日峯大神子広域公園に含まれており、森林法上の森林管理と都市計画法上の公園管理を両立させる必要があります。当然のことながら利用者である県民にとって最もよいコンセプトが求められます。

商工部会では、この最適解を見つけるために今後とも議論と実践を重ねていく計画です。

その他、商工部会では、雑多な集団であることのメリットを生かしながら、徳島県を取り巻くさまざまな課題に、技術士の視点で取り組んでいきたいと考えています。

広く、徳島県技術士会メンバーのご協力やご参加をよろしくお願いいたします。

編集後記

2025年4月13日から10月13日の184日間、大阪^{ゆめしま}夢洲で大阪・関西万博が開催されました。テーマは「いのち輝く未来社会のデザイン」です。多くの国が未来社会を夢みて、輝く「いのち」、それを形にしていました。そこでは情報通信技術(ICT)を活用して未来の社会が描かれていました。さらに来場者がスマートフォンを使って、みんなで協働して未来の社会、そして「いのち」を形にしていました。

皆様は覚えておられるでしょうか。1977年に打ち上げられたボイジャー探査機を。ボイジャー探査機は、地球の「いのち」、文化を伝えるためのゴールデンレコードを持っています。巡り合えないかもしれないけれど、宇宙のかなたの「いのち」と出会えることを夢見て、今も旅を続けています。

ふと、私たち技術者は、いつも「いのち」を守るための活動をしている、そのような気がします。安心して歩ける道の設計、安全に使える機械の設計、安心して食べられる農作物の育成、環境の保全など、技術の全てが地球上に生きる多くの「いのち」を守るために存在しているのではないのでしょうか。それでも守れない「いのち」があります。そのために「科学技術の向上と国民経済の発展に資する」という技術士の理念に沿って、これからも当会は活動を続けてまいります。

会報第33号では、17人の会員に執筆いただきました。各会員の専門分野に関する技術論文、私たちが暮らす郷土～徳島～に関する寄稿、大変勉強になる寄稿、楽しませてくださる寄稿など、さまざまなテーマの寄稿があります。さらに、毎年継続している「なでしこ技術サロン」や阿南高専への出前講座などを通して、当会の広報活動や地域貢献事業をより充実したものにできていると実感しています。

協賛いただきました企業の皆様、当会の活動にご理解を賜り、心温まるご支援をいただきましたこと、心より御礼申し上げます。表紙絵画をいただきました加賀晃次名誉会員（第五代会長）、広報委員を含め会報の発行にご協力いただきました理事会の方々、毎年会報発行にご尽力いただいております松下印刷様、本会報を手にとっていただきました皆様に心より感謝申し上げます。

徳島県技術士会 広報委員会

委員長 田中 昌治

副委員長 多田 圭一

広報委員 上田 幸男、神田 幸正、平尾 芳典、宮住 勝彦（五十音順）